



「待ってよ。わたしそんなに速く歩けない……ふぎゃっ、ご、ごめんなさい」
前方から歩いてくる人にぶつかりつつ、必死で銀色の頭とスピアの刃先を追いかける。
「まったく、トロイヤツだな」
ロベルトはちらりと後ろを振り返った。
「ちゃんについてこいよ。この人混みじゃ、はぐれたら探すのも一苦労だ」
「分かってるよ」
「絶対に俺から離れるな。いいな？」
「……うん、絶対に離れない」
わずかに歩調をゆるめた彼の背中にびったりくっつくようにして歩いていく。